OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学アーカイブズニューズレター　第28号
Author(s)	
Citation	大阪大学アーカイブズニューズレター. 2026, 28, p. 1-8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/106732
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ISSN 2187-7270

大阪大学
アーカイブズニューズレター

第 28 号　2026.09.30

目次：

大阪帝国大学第 1 回評議会議事録　1
室長就任のご挨拶　2
大阪大学における過去の沿革史編纂　3
業務日誌（抄）（2026 年 3 月～8 月）　7

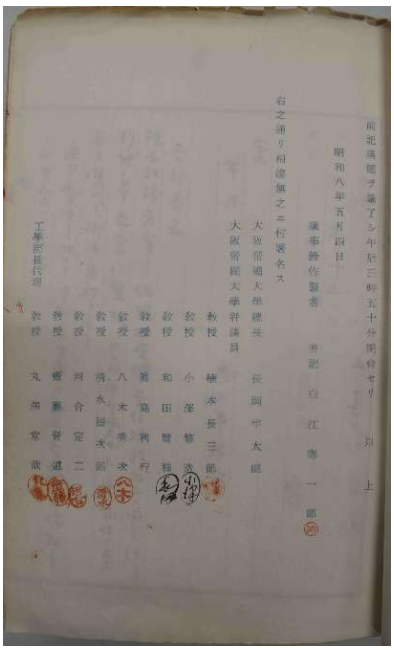


写真 3

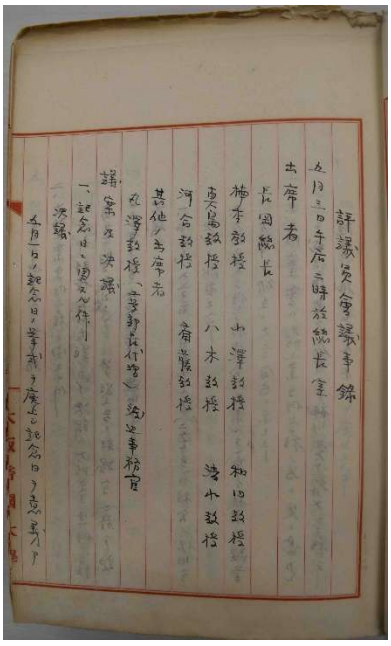


写真 2

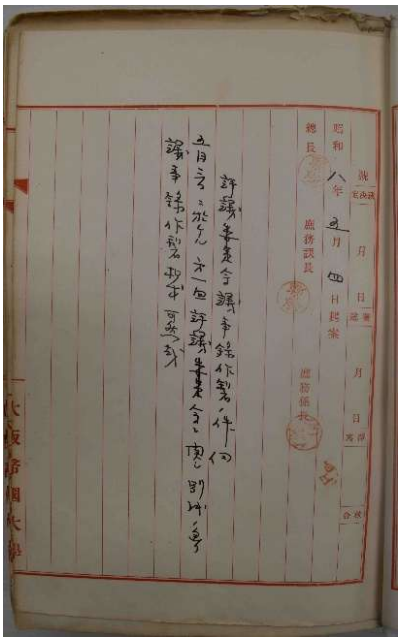


写真 1

大阪帝国大学第 1 回評議会議事録

大阪帝国大学の第 1 回評議会は、大学設置の 2 年後、1943（昭和 8）年 5 月 3 日午後 2 時から総長室で開催されました。五つの議案に対して、それぞれに決議がなされました（写真 2）。

翌 4 日に「評議~~委員~~会議事録作製ノ件伺」が起案決裁され（写真 1）、手書きの議事録がタイプ打ちされました（写真 3）。タイプ打ち議事録では、手書き議事録の内容に「右ノ通リ相違無之ニ付署名ス」が追加され、総長以下評議員が押印しました。長岡半太郎総長と眞島利行評議員は押印していませんが、議事録として成立しています。

議事録作製伺とタイプ打ちは、第 2 回からはなされていません。庶務課長を兼任する事務官が総長に代わって押印している（写真 1）ことも興味深いです。この他にも、文書学的に考察することにより、大阪帝国大学創立当初の大学行政のあり方を読み取ることができます。

（識別番号 2023/総総/1 昭和八年度評議会議事録綴）　（菅　真城）



室長就任のご挨拶

大阪大学アーカイブズ室長・人文学研究科教授　田口　宏二朗

この 4 月をもってアーカイブズ室長を拝命いたしました、田口と申します。初代室長の阿部武司先生（元経済学研究科教授、大阪大学名誉教授）・二代目室長の飯塚一幸先生（元人文学研究科教授、京都橘大学教授、大阪大学名誉教授）・三代目室長の高橋明男先生（元法学研究科教授、追手門学院大学教授、大阪大学名誉教授）・四代目室長の廣田誠先生（経済学研究科教授）に続く、五代目室長ということになるかと存じます。飯塚室長のご在任時より、本学アーカイブズ兼任教員（大学史資料部門）を務めておりましたが、正直この業務の何たるかも分かっておらず、お恥ずかしい限りです。経験不足ながら微力を尽くす所存ですので、何卒ご高庇たまわれば幸甚です。

私自身は人文学研究科において、中国近世近代史の教育・研究に従事しております。国内の史料収蔵機関としては、京都大学人文科学研究所や東洋文庫、国外では中国国家図書館・中国第一歴史檔案館・南京市檔案館・国史館・英国国立公文書館など、数多の図書館やアーカイブに足繁く通い、エンドユーザーとしてお世話になってきました。この度は史資料の整理・保存・管理の側に廻るということで、その責任の重さに、身の引き締まる思いをしております。

本学アーカイブズの前身は、日本綿業史の泰斗でもある阿部初代室長のご尽力により、2005 年より本学関係の史料管理関連の事業が開始され、翌年には文書館設置準備室を組織されたことに始まります。これらを承け 2012 年 10 月 1 日をもって、本学アーカイブズが発足いたしました。翌年 4 月には、本学アーカイブズは、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）に依拠し、「国立公文書館等」（国立公文書館に類する機能を有する施設）・「歴史資料等保有施設」（保有する歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料について適切な管理を行うもの）という二つの機能を具備するものとして、内閣総理大臣により指定されました。この二つの機能に対応するかたちで、本学アーカイブズには、法人文書資料部門と大学史資料部門の両部門が設けられ、現在に至っております。

つまり本学アーカイブズは、日々膨大に生み出される法人文書（実は学生の提出した卒業論文などもこれに含まれます）のうち、どれが重要なもので保存すべきなのかを見極め、適切な管理を行うことで、本学の教育・研究の向上や円滑な管理運営に寄与するとともに、幅広いステークホルダーへの説明責任を果たすのをタスクとしている――そのように、私は理解しています。

組織といたしましては、本学アーカイブズは、大阪大学総合学術博物館・大阪大学適塾記念センターとともに、「大阪大学ミュージアム・リンクス」を構成し、また大阪大学共創機構とも連携しつつ、あらたな社学連携を目指しております。現在、本学アーカイブズは、吹田キャンパスの附属図書館生命科学図書館のなかにオフィスを設置しています。

本学アーカイブズは目下のところ、大阪大学（大阪外国語大学、旧制大阪帝国大学・大阪医科大学・大阪工業大学・大阪高等学校・浪速高等学校・大阪薬学専門学校・大阪外国語学校・大阪外事専門学校やその前身校を含みます）に関する、さまざまな資料を収集しております。広報誌などの学内刊行物・時間割・講義ノート・文書資料・学生運動関係等のビラ・写真（アルバム）、記念品など、大阪大学の歴史に関する資料の寄贈・貸与を広く呼び掛けておりますので、ご協力いただければ幸いです。

以上をもちまして、きわめて略式ながら、就任のご挨拶に代えたいと存じます。

大阪大学における過去の沿革史編纂

大阪大学ミュージアム・リンクス（アーカイブズ兼任）教授　菅　真城

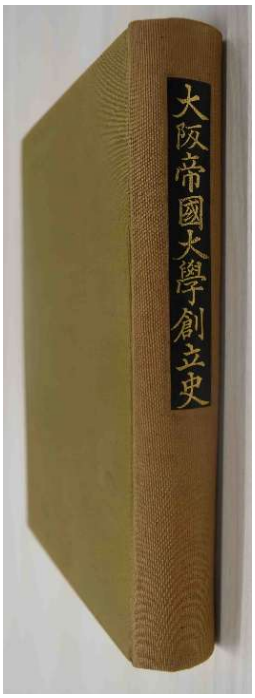
はじめに

1931 年 5 月 1 日に大阪帝国大学として設置された大阪大学は、2031 年に創立 100 周年を迎える。2026 年 1 月に総長を委員長とする大阪大学創立 100 周年記念事業委員会が発足し、その下に 100 年史編纂・展示実行委員会が置かれ、『大阪大学百年史』を編纂することになった。筆者はこの実行委員会委員を拝命した。そこで、『大阪大学百年史』編纂に資するために、大阪大学における過去の沿革史編纂について整理しておくことにする。

1．西尾幾治編纂『大阪帝国大学創立史』

1935 年 5 月 25 日、恵済団から西尾幾治編纂『大阪帝国大学創立史』が刊行された。菊判、413 頁。

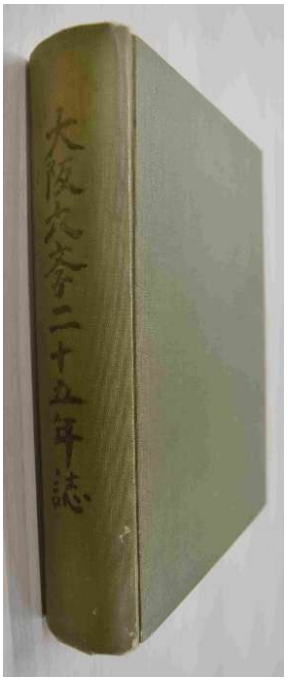
同書は、西尾 1 人の手による。西尾は、大阪府立医科大学幹事として大阪帝国大学創立に奔走し、大阪帝国大学が創立されると初代事務官（戦後の事務局長に相当）に就任した。西尾は、「将来本学創立の沿革を知らんとするものゝ参考資料に供するため、予当事者による書てその概要を蒐集し置」いた。それを主として執務日誌に基づき編纂したものである。[1]。当事者による記録で、現在では失われた資料も多数掲載しており、資料的価値が高い。2004 年に大阪大学出版会から復刊された。



2．25 周年

大阪大学創立 25 周年記念事業の一環として、1956 年 11 月 1 日に大阪大学から『大阪大学二十五年誌』（全 1 巻）が、刊行された。菊判、641 頁。

1955 年 5 月 18 日の評議会で、1956 年秋に大阪大学創立 25 周年記念式典を催すことが決定され、実行委員が各学部から選出された。同年 7 月 6 日に第 1 回記念事業計画委員会が開催され、式典事業の一つとして『大阪大学 25 年誌』を刊行することになり、市原硬医学部教授が編集委員長に指名された。その後各部局から委員を選出して記念誌編集委員会を組織した。



同年 9 月 5 日に第 1 回編集会議を開いて、以下のように申合せた。

1、 各講座別（一般教養部では学科別）に責任者を選出し、各部局ごとに部会を組織し、部局委員がそれぞれの部局部会を総括する。
2、 全般に亘る記述は本部および各部局の庶務が担当し、各講座に関する記述はそれぞれの講座選出の委員が担当する。
3、 記述の内容を次のやうにする。
　イ　昭和 6 年 5 月以前を前史とし、それのあ

[1] 巻頭言。

るものは加えること。

ロ　学部および講座の増設、人事移動(ママ)、学生の増減など機関記念誌に通常設置されるものゝほかに、当該講座において挙げた著名な研究成績および生れ(ママ)た有力な人物について略記する。

4、 原稿締切は昭和 30 年度末。

5、 400 字詰専用原稿用紙を用い、各講座割り当ては 4 枚以内、止むを得ぬ場合でも、5 枚を超えぬこと。[2]

当時の正田建次郎総長は、「序」において、25 年誌編纂の意義を次のように説明している。

> こゝに記念事業の一つとしてこの 25 年史編さんを企てたのは、本学の過去及び現在の実体を忠実に写し出すことが、私共の本学に対する自信と反省の資となるとともに、今日までに寄せられた各方面の援助に対して感謝の意を表す途であると信じたからであります。従つて本誌は大学本来の二つの使命にそつて大学がどのようなことを成し遂げたか、また現在どのような状態にあるかの報告書のような形式を取りました。

同書は、基本的に講座史の累積による部局史である。通史にあたる総記は、本部庶務が記述した年表である。大阪帝国大学・大阪大学全体についての歴史研究はなされていない。

3．50 周年

創立 50 周年記念事業は、4 年前の 1977（昭和 52）年から検討が始められた。1979 年に大阪大学創立五十周年記念事業委員会が組織され、その下に大阪大学五十年史編集実行委員会が置かれた。実行委員会委員長には中馬一郎医学部教授が、副委員長には梅溪昇文学部教授が就任した。この編集実行委員会内に大阪大学五十年史資料・編集室が設置された。専任室員は、当初 2 名（教員（医学部助手→助教授）1、事務補佐員 1）であったが、翌年に事務補佐員が 1 名増員された。

1980 年に全巻を通じての編集方針が決定された。

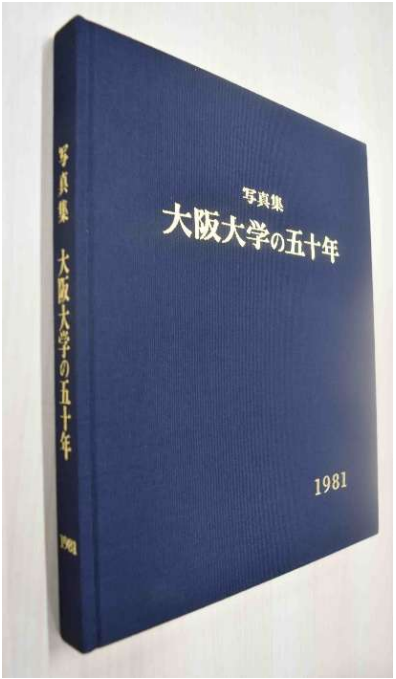
（1）1931（昭和 6）年創立以来 50 年の歴史を記述し、大阪大学が人材の育成ならびに学術の発達に果たした役割を明らかにする。

（2）大阪大学の創立事情に鑑み、前身校ならびに研究諸施設の沿革もとりあげ、大阪の文化的、社会的、経済的土壌との関連を重視する。

（3）先に刊行された『大阪大学二十五年誌』（1956 年発行）を参考にしつつも構想を新たにして根本資料を収集し、編集を行う。

（4）五十年史は通史、部局史（2 巻）、写真集の全 4 巻として編集し、各巻の構成は別に定める。

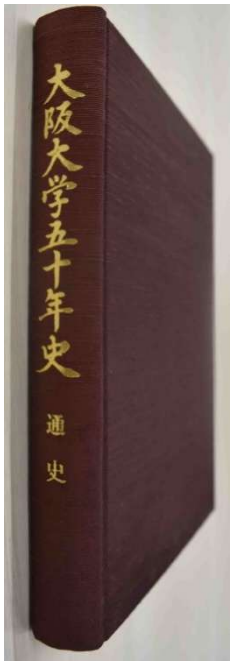
五十年史資料・編集室では、五十年史の内容の充実と円滑な編集作業を期すために 1981 年から『大阪大学史紀要』を刊行した。この紀要は、1987 年刊行の第 4 号まで、計 4 号が刊行された。

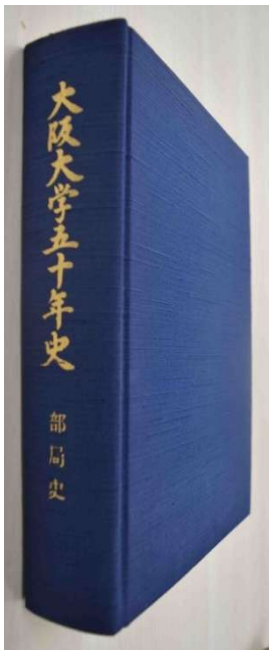


写真集編集にあたっては、編集実行委員会内に写真集小委員会を組織し、堀川明工学部教授が委員長に就

[2] 編集後記。

任した。この写真集は、1981 年 3 月 31 日に『写真集　大阪大学の五十年』として刊行された。187 頁。



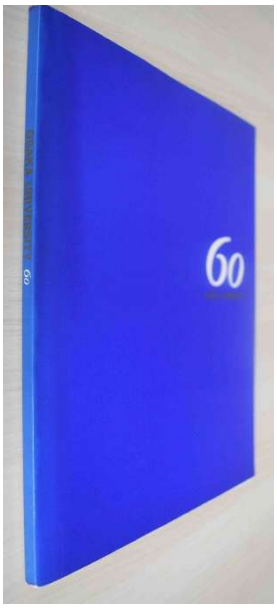


部局史は、1979 年に編集実行委員会が作成した部局史執筆要領に基づいて、各部局に執筆を依頼した。各部局ではこれを受けて、部局編集委員会を組織した。当初は 2 巻の予定であったが、1983 年 3 月 25 日に全 1 巻の『大阪大学五十年史　部局史』が刊行された。B5 版、987 頁。

通史については、1979 年の編集実行委員会発足と同時に、文・法・経の歴史学を専門とする委員が目次案の検討を開始した。1981 年に編集実行委員会内に通史編集専門委員会を置き、梅溪昇文学部教授が委員長に就任した。さらに、幹事会と通史執筆専門委員会が置かれた。こうして、創立 50 周年から 4 年後の 1985 年 6 月 30 日に『大阪大学五十年史　通史』（全 1 巻）が刊行された。B5 版、568 頁。

4．60 周年

創立 60 周年から、全学的周年事業が 10 年ごとになった。創立 60 周年当日の 1991 年 5 月 1 日に『OSAKA UNIVERSITY 60』が刊行された。A4 版、180 頁。「PAST（大阪大学創立 60 年の歩み）」と「NOW&FUTURE（大阪大学の現況と未来）」の二部構成。「PAST」は、『写真集　大阪大学の五十年』から抄出した写真を暦年に配置した写真集で、「NOW&FUTURE」は各部局の要覧である。新しい歴史研究は行われていない。



5．70 周年

創立 70 周年では、『大阪大学創立 70 周年記念写真集』が創立 70 周年当日の 2001 年 5 月 1 日に刊行された。A4 版、137 頁。「創立以来 60 年の詳細な記録は、50 周年と 60 周年の際に発行された記念写真集に譲り、その代わりに、ここ 10 年の出来事と将来に向けての展望を含む各部局紹介ページを充実させることにした」[3]。

60・70 周年の記念誌の歴史の部分は、『写真集 大阪大学の 50 年』を内容的にもページ数的にもだんだん薄くし、要覧的性格を強めたのであった。



6．80 周年

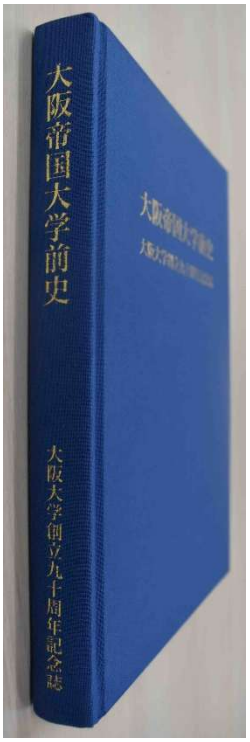
創立 80 周年では、東日本大震災のため記念誌は刊行されなかった。

なお、60 周年から 10 年ごとに周年記念事業が行われるようになったため、『大阪大学七十五年史』が編纂されることはなかった。

[3] 編集後記。

7．90 周年

創立 90 周年では、「来る 2031 年の創立 100 周年を見据えた記念事業の一環として、大阪帝国大学創設以前の歴史（前史）について振り返り、大阪大学の次の発展と飛躍のための一つの道標とすることを目的として」[4]、90 周年から 3 年遅れて 2024 年 1 月に米田該典『大阪帝国大学前史 大阪大学創立九十周年記念誌』が刊行された。A4 版、309 頁。同書は、当時の西尾章治郎総長の意向で、適塾を中心とする医学史を専門とする米田該典元助教授が一人で執筆した。



同書は、「江戸時代後期に蘭方医の緒方洪庵が大坂に開設した適塾での医学教育の歴史を検証した第 1 部と、明治維新以降に開設された大阪医学校から幾多の変遷を経て、府立大阪医科大学に至るまでの医学教育の歴史とともに、大阪工業学校から大阪工業大学に至るまでの工学教育の歴史を検証した第 2 部」[5]から構成されている。叙述の約三分の二は、第 1 部に宛てられている。数年前に緒方家で発見された晩年の適塾や塾生に関する資料に基づいて記述した新たな歴史研究であるが、著者米田は、「これらの史資料の検証は未だ十分ではない」[6]と記している。大阪帝国大学工学部に至る工業教育の歴史についての記述は、極々概要を記すにとどまる。明治以降の医学教育、工業教育の歴史ともに、『大阪大学五十年史　通史』を超えるものではない。

おわりに

本稿でみてきたように、大阪大学で本格的に歴史研究された沿革史は、『大阪大学五十年史』しかない。『通史』は、きちんとした歴史学研究であるが、典拠、執筆責任、索引がないなど、時代的制約がある。独立した『資料編』がないという欠陥もある。

『大阪大学七十五年史』が編纂されなかったため、五十年史から半世紀の年月が経過している。この間、高等教育・大学史研究は著しく進展したが、大阪大学についての個別研究はほとんどない。百年史では、この五十年間を埋めなければならない。それのみでなく、五十年史の記述も、新しい資料や研究の進展に対応して書き改める必要があるのである。

なお、本稿では大阪外国語大学・外国語学部における過去の年史編纂については論じられなかった。別稿で紹介したい。

業務日誌（抄）　（2026 年 3 月～8 月）

2026 年

・3 月 6 日　第 18 回ミュージアム・リンクス運営委員会（オンライン）

・3 月 10 日　第 2 回認証アーキビスト養成に係る教育・研修機関連絡会（オンライン）

・3 月 11～12 日　菅教授、多治見市出張。2025 年度第 2 回自然科学系アーカイブズ研究会・核融合アーカイブ室設置 20 周年記念研究会（核融合科学研究所）に出席し、「国立大学法人大阪大学における法人文書の評価選別－レーザー科学研

[4] 西尾章治郎「序文」。
[5] 西尾章治郎「序文」。
[6] 米田該典「後書き」。

究所、核融合アーカイブ室、大阪大学百年史－」講演
・３月 16 日　菅教授、防衛省防衛研究所職員に旧制浪速高等学校奉安庫について説明
・３月 22 日　菅教授、国立市出張。国文学研究資料館基幹研究「アーカイブズ社会の基盤創発に関する基礎的研究」第 6 回研究会に出席
・４月１日　菅教授、札幌市出張。北海道大学大学文書館で法人文書の評価選別についてヒアリング調査
・４月９日　副専攻/高度副プログラム・高度教養モジュール オンライン合同ガイダンス 2026
・４月 13 日　全国大学史資料協議会西日本部会 2025 年度第５回研究会
全学共通教育科目基盤教養科目「大阪大学の歴史－大阪大学を創った人達－」開講、菅教授、「概観」講義
・４月 14 日　全学共通教育科目「学問への扉（博物館・公文書館への誘い）」開講。菅教授、「ガイダンス」講義。
・４月 16 日　人文学研究科「アーカイブズ学講義」開講
・４月 18～19 日
菅教授、つくば市出張。日本アーカイブズ学会 2026 年度大会（筑波大学）に出席
・４月 27 日　菅教授、京都市出張。京都大学大学文書館で法人文書の評価選別についてヒアリング調査
・５月８日　第１回 100 年史編纂・展示実行委員会
・５月 16 日　追手門学院大学藤吉圭二ゼミが見学
・５月 18 日　菅教授、京都市出張。全国大学史資料協議会西日本部会 2026 年度総会・第 1 回研究会（京都大学）に出席
・５月 23～24 日
菅教授、八王子市出張。2026 年記録管理学会研究大会（帝京大学）に出席し、「公文書管理法体制下における法人文書の評価選別－国立大学法人を中心に－」研究発表
・５月 25 日　菅教授、基盤教養科目「大阪大学の歴史」で「大阪帝国大学の創設と理学部の新設」講義
・６月２日　菅教授、「学問への扉（博物館・公文書館への誘い）」で「阪大の施設・大阪大学アーカイブズ」講義
・６月３日　菅教授、高松市出張。令和８年度香川県立文書館運営委員会に出席
・６月８日　菅教授、基盤教養科目「大阪大学の歴史」で「旧制高校から阪大共通教育へ－大阪高等学校、浪速高等学校－」講義
・６月 12 日　菅教授、東京出張。令和８年度全国公文書館長会議（ビジョンセンター西新宿）に出席
・６月 17 日　菅教授、桃山学院大学「公共施設の情報公開の現状と課題」共同研究で「公共施設の記録の行方と公文書館の役割」講演、桃山学院大学「図書館・博物館への誘い」で「アーカイブズの現状と課題」講義
・６月 27 日　菅教授、日本歴史学協会史料保存利用問題シンポジウム（オンライン）に参加
・６月 29 日　全国大学史資料協議会西日本部会 2026 年度第 3 回幹事会（オンライン）。菅教授、基盤教養科目「大阪大学の歴史」で「戦争と大阪大学」講義
・７月１日　第 19 回ミュージアム・リンクス運営委員会（オンライン）
・７月４日　「学問への扉（博物館・公文書館への誘い）」受講生が見学
・７月７日　菅教授、「学問への扉（博物館・公文書館への誘い）」で「ＭＬＡ連携：繋がる博物館・図書館・公文書館」講義
・７月８日　全国大学史資料協議会西日本部会 2026 年度第 2 回研究会（オンライン）、菅教授、執筆論文への論評にリプライ
・８月 17 日　人文学研究科「アーカイブズ・マネジメント論講義」開講
・８月 26～27 日
菅教授、伊勢市出張。全国大学史資料協議会 2026 年度総会・全国研究会に出席

大阪大学アーカイブズ利用案内

・開室日

次に掲げる日を除く毎日

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

(3) 12 月 29 日から翌年の１月３日までの日

・利用時間

午前９時 30 分～午後４時 30 分

・利用請求の受付

午前９時 30 分～正午、午後１時～午後４時

大阪大学アーカイブズ構成員名簿

室　長　　田口　宏二朗（人文学研究科　教授）

〈兼任教員〉

【法人文書資料部門】

菅　真城（ミュージアム・リンクス　教授）
渡邉　肇（工学研究科　教授）
小野博司（高等司法研究科　教授）
中村征樹（全学教育推進機構　教授）
安岡健一（人文学研究科　准教授）
醍醐龍馬（法学研究科　准教授）
佐藤秀昭（経済学研究科　准教授）
甲斐尚人（D3 センター准教授）

【大学史資料部門】

菅　真城（ミュージアム・リンクス　教授）
宮本隆史（人文学研究科　准教授）
松永和浩（ミュージアム・リンクス　准教授）

〈事務担当〉

大阪大学総務部総務課文書法規係



大阪大学アーカイブズニューズレター　第 28 号

発行日　2026 年９月３０日
編集発行　大阪大学アーカイブズ
〒565-0871
大阪府吹田市山田丘２－３
吹田キャンパス生命科学図書館４階
Tel. 06（6879）2421
Fax. 06（6879）2422
E-mail office@archives.osaka-u.ac.jp
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/schools/ed_support/archives_room